

2017年度(平成29年度)学校評価自己評価表

福山市立東中学校区	校番 10	福山市立旭小学校
最終更新日		2017年(平成29年)5月25日

I 福山市

<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校全体で授業改善、学力向上に取り組み、成果を上げている。 小中の連携が、効果的に行われている。 	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な学力は向上が見られる。 自ら課題を発見し、解決しようとする意欲や力量が育っていない。 自分の考えや思いを相手に伝えるコミュニケーション能力が弱い。 相手を思いやる心や自らを律する力が弱い。 	<p>育成する力 21世紀型“スキル&倫理観”</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>課題発見・解決力、コミュニケーション能力、やりぬく力、思いやり</p> <p>21世紀型“スキル&倫理観”を身に付け、自ら考え主体的に学ぶ子</p> <ul style="list-style-type: none"> 東中学校体育大会リハーサル交流会(校区小学6年生による参観) 東中学校オープンスクール(校区小学6年生による体験授業、体験部活動) 「ふるさと学習」成果物の交流(校区小中学校へ回覧、展示) 校区小中学校合同授業公開(毎年各学校持ち回り)
--	--	--	---

III 自校

<p>ミッション</p> <p>『すべては子どもたちのために』失敗を恐れず、チャレンジするとともに、子どもにとって+になるか-になるかの自己判断ができ、将来の自分のビジョンを語る教職員のもとで自律した(自分で考え、判断し、実行する)児童を育成する。</p>
<p>学校教育目標</p> <p>心やさしく、自ら学び、生きぬく力を持った旭っ子の育成</p>
<p>現状</p> <p><児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な学力は定着してきているが、根拠をもとに関係づけて説明する力等活用力に課題がある。 体力向上に向けて組織的に取り組んできた結果、県平均以上の項目が83%となった。投力等の向上に今後も取り組む。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> 毎時間児童とともにめあてを設定し、目的意識を持って学習に取り組むことが定着した。 目的を明確にしてペア学習・グループ学習を行うこと、生活経験や既習学習を活用して考えている部分を評価し、価値づけるノート指導を行うことを学校全体で意識統一して授業改善に取り組んだ。

育成する力 21世紀型“スキル&倫理観”	課題発見・解決力	コミュニケーション能力	やりぬく力	思いやり
低学年	○めあてを見つけ、興味・関心を持って追究している。	○友だちと話し合うことで、考えを深めている。	○時と場を考えた行動ができ、正しい判断力をもった言動をしようとしている。	○友だちとともに活動する楽しさを体感し、仲よく助け合おうとしている。
めざす子ども像	<p>中学年</p> <p>○自ら問題を見だし、見いだした問題を興味・関心を持って追究している。</p> <p>高学年</p> <p>○自ら課題を見つけ、生活経験や学習経験を基に、見通しを持って追究する学び方を身につけている。</p>	<p>○ペア学習・グループ学習・全体交流で相互に話し合う中で、学びを深めている。</p> <p>○ペア学習・グループ学習・全体交流で相互に話し合う中で、論理的表現力を高めている。</p>	<p>○相手意識を持ち、自分の言動をコントロールし、場に応じた行動ができる。</p> <p>○内的規範(自律)を持ち、学校や地域で場に応じたふさわしい行動ができる。</p>	<p>○友だちのよさと自分のよさを知り、学級での自己の役割を自覚して仲良く助け合っている。</p> <p>○友だちのことを思いやりながら自分の役割や責任を果たし、人のために役立とうとしている。</p>
研究	<p>教科等</p> <p>理科(生活科)・特別活動</p> <p>主題・内容等</p> <p>自分の考えを生き生きと表現できる児童の育成 ～課題解決に向けて協働的な学びのある理科研究～</p>			
めざす授業の姿	<p>○児童が自ら課題を見つけ、解決していく授業</p> <p>○かかわり合うことで思考が深まる授業</p> <p>○学んだことを他の授業や生活に活かせる授業</p>			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立旭小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る取組状況	力を入れた評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	力を入れた評価	達成評価	総合評価
3	確かな学力 基礎・基本の定着と主体的・対話的で深い学びの実現	★	継続	学習内容の確実な定着を図り、基礎・基本の学力、活用力を身につける。課 回 【総合評価指標】 年度末標準学力調査において全学年を全国平均以上	<ul style="list-style-type: none"> 「分かつタイム」を毎月、チャレンジプリント(国・算・理)を毎日実施する。 授業の中でめあてに迫るための大切な学習用語を使って、自分の考えを表現する場(ペア学習、グループ学習における学び合い)を設ける。 単元ごとの学習用語を事前に学年で確認し、記録に残す。 	<ul style="list-style-type: none"> 国・算・理の単元末テストで70%以上の児童の割合を85%以上 理科・生活科における各単元末に活用問題を実施し、必要な学習用語を落とさずに書ける児童の割合75% 授業毎にペア学習、グループ学習のねらいを児童におさえた授業展開実施率100% 実施率100% 								
3	豊かな心 規範意識や自己有用感を育成する	★	継続	9年間を見通した生徒指導の充実を図り、規範意識を高める。課 自己有用感を高め、認め合い、高め合う児童を育てる。回 思 也 【総合評価指標】 年間30日以上欠席児童を0%	<ul style="list-style-type: none"> 「旭小学校のきまり」を守ることができるよう児童会による児童自治を行い、児童主体の目標設定を毎月行う。 自分のよいところを見つけ、友だちのがんばりやよいところを認め合う場を帰りの会にすべての学級で取り組む。 旭小プロを目指し、児童一人一人が得意なことを1つでもよいから1年間通して行わせ、全員表彰する。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の自己の振り返りで90%以上守れる児童が100%。 実施率100% 								

<p>3 健康・体力づくりの推進</p>	<p>★ 継続</p>	<p>運動に意欲的に取り組み、目標を持って体力づくりをする児童を育てる。や 課 【総合評価指標】 2 回目実施の体力テスト県平均以上の項目を85%以上</p>	<p>・毎時間の体育授業で、セット運動(週ランニング3周→サーキット運動、キャッチボール、週ランニング3周→体操ストレッチ)を取り入れる。 ・新体力テスト成績優秀者に表彰を行い、体力向上に向けての意欲をもたせる。</p>	<p>・実施率100%</p>						
<p>3 市民から信頼される学校 保護者・地域に愛される学校づくりの推進</p>	<p>継続</p>	<p>積極的に情報発信を行い、保護者・地域住民の学校満足度を高める。 【総合評価指標】 保護者の肯定的評価の割合を90%以上</p>	<p>・学校、学年、保健通信を月1回以上、学級通信を月2回以上発行する。学年の様子を月1回以上、児童の様子を月4回以上HPで発信する。 ・教職員は積極的に地域行事に参加する。</p>	<p>実施率100% 年に4回以上参加</p>						

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。